

表題 : 市民マラソン競技のケアサポートにおける学生指導法の研究
著者名 : 学校法人木島学園 北信越柔整専門学校 赤塚 大輔
キーワード : かなざわ市民マラソン、メディカルケア、学生指導法

抄録

要旨 :

1. 目的

実践現場を体験して学生のモチベーションの向上、教員の指導力の向上、実践現場での体験を学生に伝えることによる学生の柔道整復師としての意識改革を目的とする。昨年度同様、マラソン競技での施術統計を引き続き研究し効果的な救護活動、施術法を充実させる。

2. 方法

平成 25 年 11 月 10 日に開催された第 20 回かなざわ市民マラソン(10km、5km、3km の部で大会参加総人数 4,040 名)に、本校から“接骨アスリートケアチーム”を結成し、昨年同様にスタート前と後に訪れた選手の施術統計(来所目的、施術部位、主観的疼痛評価など)を調査した。また、大会までの準備期間(平成 25 年 9 月 20 日～11 月 15 日までの約 2 ヶ月間)に放課後に週 1 回、全 9 回の事前講習を行った。また、ケアサポート活動 2 年目を迎える今回、事前講習をグループ制とし学生に学びたい内容を聴取し、それにそったカリキュラムを組んだ。具体的な集計としてアンケートで、ケアサポート参加前と後の心境の変化を比較検討した。対象者はケアサポート参加を希望した学生 41 名である。

3. 結果

大会当日は暴風注意報が発表され、開催が危ぶまれるほどの悪天候であった。当ブースの利用者は男性 52 名、女性 14 名であり、年齢構成は 10 歳未満 : 4 名、10 代 : 5 名、20 代 : 8 名、30 代 : 9 名、40 代 : 12 名、50 代 : 10 名、60 代 : 9 名、回答なし 9 名。競技種目の内訳は 10km : 51 名、5km : 6 名、3km : 8 名、回答なし 1 名であった。

また、ケアサポート参加を希望した学生 41 名のうち、サポート活動の経験ある者は 12 名、ない者 29 名であった。アンケート結果で、特に初参加者では「スポーツケアで重要だと感じたことは？」の設問に対し、「選手とのコミュニケーションの取り方」の回答が 62.1%と多数を占め、「選手のパフォーマンスの向上」の回答が 37.9%であった。一方、昨年度参加者や複数年度の参加者では「選手のパフォーマンスの向上」や「施術

後の評価法」などの技術面に課題をもつ者が92.0%と多数であった。

4. 考察

昨年度に比べ、来所者が少なかった原因として、明け方に暴風注意報が発表されたことで開催が危ぶまれていたこと、正午まで終始雨が降り続いていたことが挙げられる。

事前講習会については事前に希望を募りグループ分けをしたため、学生が自主的にテーマを選び目標設定を行うことができ、スキルアップできる目的には有用であった。初参加者のアンケートで「コミュニケーション」の回答が多い理由として、実際に選手と接することは初めてであり、限られた時間でうまく要点を引き出すことが困難なことが挙げられる。初参加者のコミュニケーションスキルの不足は否めないが、他大会の参加、複数年度の参加により経験を積み重ねることで改善したいと考える。2回以上の参加者ではコミュニケーションスキルの不足の改善、新たな課題意識、積極性が確立されていた。

5. 結論

今後も活動を継続し学生の社会活動やスポーツ活動への啓蒙をさらに深め、柔道整復師としてスポーツ分野との深い関係を築き教育の体験の現場としての確立を目指していきたい。また、“接骨アスリートケアチーム”として活動を続け、チームリーダーを育成していくことが課題である。

本文：

1) 緒言

昨年度は、金沢市市民局スポーツ課の協力を得て、「かなざわ市民マラソン」でのケアブースを設置し、教員を中心としたケアサポートチームを組み、金沢市からも称賛される実績を獲得し、学生にもスポーツ現場を体験させることにより満足する結果を得ることができた。また、参加アスリートにも柔道整復師の職種やライセンスについての十分な理解を得ることもでき、図らずも柔道整復師のケアサポートについての優位性（差別化）を示す機会を与えられ、スポーツ分野における柔道整復師の必要性を実感できた。

今回2年目を迎え、スポーツケアチームとして「かなざわ市民マラソン」に参加し、学生に実践現場を体験させることでモチベーションとスキルの向上、柔道整復師としての意識改革を図り、学生指導上の問題点やケアサポートに必要な医療知識を検討し、事前講習を行うことで教員の指導力向上を目的とした。昨年度同様、マラソン競技での施

術統計を引き続き研究し、効果的な救護活動、施術法を充実させた。

2) 対象および方法

平成 25 年 11 月 10 日に開催された第 20 回かなざわ市民マラソン(10km、5km、3km の部で大会参加総人数 4,040 名)に、本校から“接骨アスリートケアチーム”を結成し、昨年同様にスタート前と後に訪れた選手の施術統計(来所目的、施術部位、主観的疼痛評価など)を調査した。(図 1) 尚、大会当日は学生 1 人に対し教職員が 1 人つきサポートを行った。また、大会までの準備期間(平成 25 年 9 月 20 日～11 月 15 日までの約 2 ヶ月間)の放課後に週 1 回、全 9 回の事前講習を行った。(図 2) 第 1 回と第 2 回は下肢のストレッチングとマッサージの基本法、第 3 回はパイロットスタディとして「第 32 回 KOMATSU 全日本鉄人レース」のケアサポートに参加した。そして、事前講習の成果を検証し、学生に学びたい内容を聴取し、それにそったカリキュラムを組み、第 4 回～第 6 回はスポーツマッサージ、ストレッチング、テーピングの 3 会場に分かれグループ講習を行った。第 7 回からは全体講習となり一次救命処置、第 8 回は大会前のミーティング、第 9 回では総括として意見交換会を行った。具体的な集計としてアンケートで、ケアサポート参加前と後の心境の変化を比較検討した。(図 3、図 4) 対象者はケアサポート参加を希望した学生 41 名(サポート活動の経験がある者は 12 名、ない者は 29 名)である。(図 5)

3) 結果

大会当日は暴風注意報が発表され開催が危ぶまれるほどの悪天候であり(図 6)、ブース利用者は 4,040 名中、述べ 66 名(内訳として男性 52 名、女性 14 名)が来所した。年齢構成は男性 10 歳未満: 4 名、10 代: 5 名、20 代: 6 名、30 代: 6 名、40 代: 10 名、50 代: 8 名、60 代: 8 名、回答なし 5 名。女性 20 代: 2 名、30 代: 3 名、40 代: 2 名、50 代: 2 名、60 代: 1 名、回答なし 4 名であった。(図 7)

競技種目の内訳は男性 3km: 8 名、5km: 4 名、10km: 39 名、回答なし: 1 名。女性 5km: 2 名、10km: 12 名であった。(図 8) 昨年度の 4,253 名中、114 名の来所と比べると少ない結果となった。希望したケアの部位では男性、女性ともに下肢が多かった。(図 9)

また、学生のアンケート結果では、特に初参加者で「スポーツケアで重要だと思うことは？」の設問に対し、「選手とのコミュニケーションの取り方」の回答が 62.1%、「選手のパフォーマンスの向上」の回答が 37.9%である一方で、昨年度参加者や複数年度の参加者では「選手のパフォーマンスの向上」や「施術後の評価法」など技術面に課題

をもつ者が 92.0%と多数であった。

4) 考察

昨年度に比べ、来所者が少なかった原因として、明け方に暴風注意報が発表されたことで開催が危ぶまれていたことや、正午まで終始雨が降り続いていたことが挙げられる。事前講習会については事前に希望を募りグループ分けをしたため、学生が自主的にテーマを選び目標設定を行うことができ、スキルアップできる目的には有用であった。

学生のアンケート結果で、初参加者の「選手とのコミュニケーションの取り方」の回答が多い理由としては、実際に選手と接することは初めてであり、限られた時間でうまく要点を引き出すことが困難なことが挙げられる。さらにケア中に無言となることで焦りを感じ、講習通りの手技ができず、また、会話が中心となることで手技が疎かになり時間をオーバーしてしまう。これは手技や知識に自信がないために講習で学んだことが飛んでしまうことや、コミュニケーションを単なる日常会話と捉えているため選手の満足度を高めることができず、結果的に会話でケアをカバーしてしまうためである。

初参加者のコミュニケーションスキルの不足は否めないが、他大会の参加、複数年度の参加により経験を積み重ねることで改善したいと考える。

2回以上の参加者にはコミュニケーションスキルの不足の改善、新たな課題意識、積極性が確立されていた。

5. 結論

今後も活動を継続し学生の社会活動やスポーツ活動への啓蒙をさらに深め、柔道整復師としてスポーツ分野との深い関係を築き教育の体験の現場としての確立を目指していきたい。また、“接骨アスリートケアチーム”として活動を続け、チームリーダーを育成していくことが課題である。

6) 引用文献

1. 金沢市 『第 20 回 かなざわ市民マラソン結果報告書』 2013 年 11 月 10 日
2. 山田駿 『市民マラソン参加アスリートに対する柔道整復療法（手技療法）の確立に関する臨床的研究』 第 5 5 回教員研修会 ポスターセッション「教員研究発表」平成 2 4 年度全国柔道整復学校協会学校運営改善等助成事業

図1

問診票 金沢市民マラソン No. 競技No.

※ 太枠のところを記入してください。

実施時	レース前・レース後・レース中止	種目	3km・5km・10km
フリガナ		男・女	県外() 県内()
氏名			
身長	cm / 体重	kg	年齢
マラソン競技歴 その他の競技 種目名	年 年	既往歴 または 現病歴	

施術希望部位に○をつけてください。

正面

背面

(1) レース前主訴

痛み・運動痛・張り・予防

その他

施術内容

ストレッチ・テーピング・マッサージ

その他

(2) レース後主訴

痛み・運動痛・張り・予防

その他

施術内容

ストレッチ・テーピング・マッサージ

その他

(3) レース中主訴

痛み・運動痛・歩行困難

その他

施術者 記入欄

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

担当者

H25年度 事前講習会スケジュール	
【日程】	【講習内容】
	全体講習
第1回 9月20日(金)	下肢ストレッチ1
第2回 9月27日(金)	下肢ストレッチ2、ミーティング
9月29日(日)	小松鉄人レースに参加
第3回 10月4日(金)	意見交換会
	グループ実習
第4回 10月11日(金)	①テーピング、ストレッチ、マッサージ
第5回 10月18日(金)	②テーピング、ストレッチ、マッサージ
第6回 10月25日(金)	③テーピング、ストレッチ、マッサージ
	全体講習
第7回 11月1日(金)	AEDの使い方、脱水症の処置法 熱中症の処置法、低体温症の処置法
第8回 11月8日(金)	ミーティング
11月10日(日)	かなざわ市民マラソン参加
第9回 11月15日(金)	意見交換会

スポーツケア事前アンケート

学部（昼・夜） 学年（1・2・3） 年齢（ 才 ） 性別（男・女）

【主旨】
 このアンケートは、参加者の方々が現時点でどのような課題意識をもっているかを事前に把握すること、
 また今後の講習会およびスポーツケア活動に必要な技術、知識を深めた後のモチベーションの変化を
 調査することを目的に実施します。

【方法】
 各設問に対して該当するものに○を、『その他』の欄には自分の思うことを書いて下さい。

I. 好きなスポーツは何ですか？ ()
 今までで一番長く経験してきたスポーツは何ですか？ ()
 その期間はどれくらいですか？ (年間・か月間)

II. これまでにスポーツ現場でのサポート活動に参加したことはありますか？
 ① ある
 ② ない

III. 「IIで ある」と答えた人は以下の設問に答えて下さい。
 ① 参加した競技 ()
 ② 参加した回数、期間 ()
 ③ 具体的な内容 ()
 ex. コーチ、大会運営、ケガの応急処置など

IV. 今回、スポーツケア活動の参加を希望した理由に○をつけて下さい。(複数回答可)
 ① 現場を体験してみたい
 ② 勉強とのつながり
 ③ 選手のケアをしたい
 ④ 地域社会への貢献
 ⑤ その他 ()

図 4

V. あなたにとって、スポーツケアで1番大事だと思うことを書いて下さい。

VI. 事前講習で学びたいことに○をつけて下さい。(複数回答可)

- ① ストレッチ法
- ② マッサージ法
- ③ テーピング法
- ④ 一次救命処置法
AEDの使い方
脱水症の処置法
熱中症の処置法
低体温症の処置法
- ⑤ その他 ()

VII. 今回のケア活動で注意しなければならないと思うことを書いて下さい。

VIII. 前年度の参加者は1年間で何か取り組んできたことはありますか？

IX. 今回のケア活動に参加するにあたり不安なことはありますか？

X. 最後に 自己PR (自分のここが活動に生かせると思う！ など、その他なんでも書いて下さい)

ご協力ありがとうございました。

2

図 5

サポート活動歴があると回答した者 12名

年齢/性別	参加した競技	内容	期間	スポーツ歴
19歳男性	空手大会	運営補助	高校3年間	空手11年間
42歳男性	マラソン	マッサージ	2回	自転車3年間
23歳女性	水泳、サッカー	トレーナー、運営補助	4年目	水泳15年間
49歳男性	空手、アメフト、 総合格闘技、 マラソン、陸上、 ハンドボール、 新体操など	コンディショニング、 ストレッチ、テーピング、 応急処置など	10回以上	レスリング5年間
19歳女性	マラソン	賞状作成、給水	スポーツ歴なし	スポーツ歴なし
20歳男性	陸上、トラック、 ロードレース	運営補助	10回程	陸上6年間
19歳男性	鉄人レース	マッサージ	1回	ラグビー3年間
20歳男性	鉄人レース、 市民マラソン	ストレッチ	2回	柔道8年間
29歳男性	鉄人レース、 市民マラソン	マッサージ、ストレッチ	2回	バスケットボール 15年間
26歳男性	アメフト	テーピング、ストレッチ	10回以上	野球9年間
20歳男性	鉄人レース、 市民マラソン	マッサージ、ストレッチ	2回	野球8年間
20歳男性	鉄人レース、 市民マラソン	マッサージ、ストレッチ	2回	バスケットボール 9年間

図6

大会当日の天候	※暴風警報発令
①天候 :	雨
②降水量 :	8.0mm
③気温 :	平均 14.5℃
④湿度 :	平均 74%
⑤風速 :	平均風速 7.2m/s 最大瞬間風速 23.9m/s

国土交通省 気象庁 発表

図7

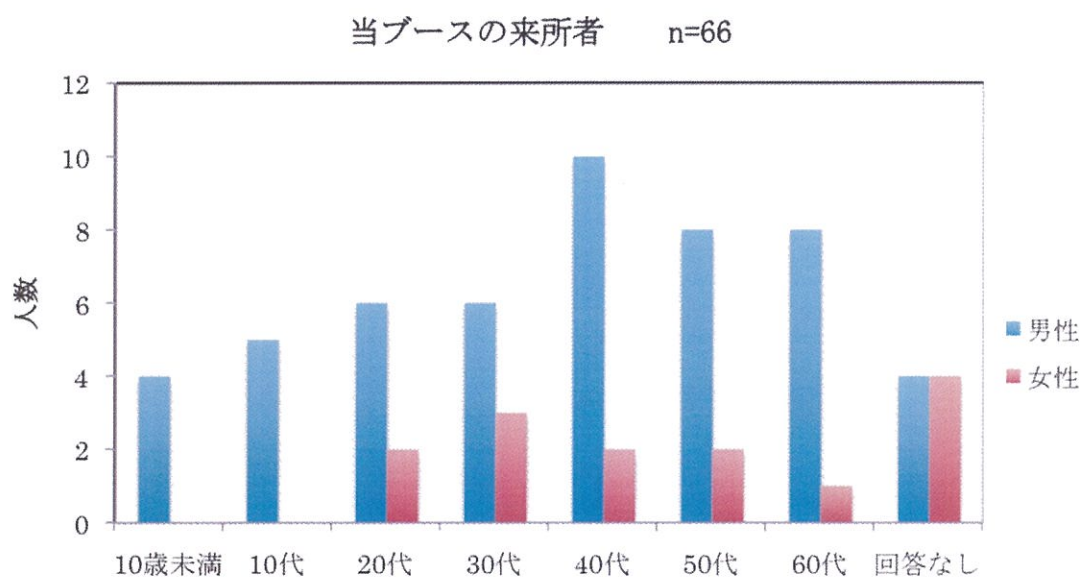


図8

表2 種目別の来所者 n=66

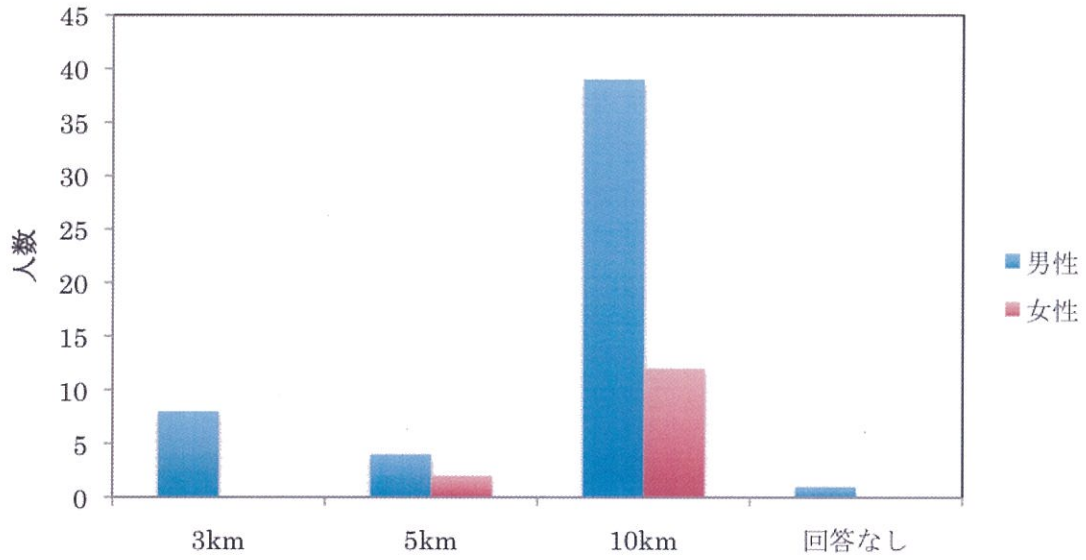


図9

希望ケアの部位 (重複部位あり)

